

2023年11月定例会 総括質疑

2023年12月1日

静岡市議会議員

松谷 清

1. 社会の大きな力と情報公開・市民参加について

「世界の大きな知」と「社会の大きな力」を活かした根拠と共感に基づく市政変革研究会資料が議会に提供されています。レベルは高く刺激的な中間報告となっています。「社会の大きな力」を引き出すものは「情報公開と市民参加」が前提になると考えます。その観点で報告を見なおすと様々な手法があちこちにちりばめられていることに気がきます。従来の情報公開・市民参加の枠組みとの差異や質的变化を期待するものです。

(1) 情報公開・市民参加の考え方について

- ① 社会の大きな力は情報公開・市民参加と組み合わせられた時に発現されると考えるが、今後の情報公開・市民参加について市はどのように考えるか。

<総務局長 答弁>

今後の情報公開・市民参加についてどのように考えるのかについてですが、議員ご指摘の「社会の大きな力」を引き出すためには、「説明責任」を義務として行うものという従来の認識に留まらず、政策形成過程において、より市民が参加しやすい環境を整えることが必要であると考えています。例えば、市民の皆さんの信頼を得るために、市が持つ様々な情報をあらかじめ分かりやすく、使いやすく公開することや、ワークショップのような双方向のコミュニケーションが図れるような場において、市民の皆さんと対話しながら合意形成を進めることが、これまで以上に重要になってくると考えます。「信頼と共創の市政」の実現に向け、こういった取組をより一層進めてまいります。

(2) 政策形成過程への市民参加について

- ① 4月の選挙時において市民団体である「マニユエスト制作研究会」からデジタル技術を活用した市民参加システムである「アイデアボックス」の採用について公開質問状が出されました。当時、市長は「このような仕組みを市政に生かすことは必要」と回答されています。「アイデアボックス」は、スペインのバロセロナ市で採用されている「デシディム」の変容バージョンです。日本では「デシディム」は加古川市、「アイデアボックス」は横浜市が採用しています。パブコメによる市民参加方式の水準をアップするものです。デジタル技術を活用した市民意見の聴取の方法について、どのような調査、研究をしているのか。

<市民局長 答弁>

デジタル技術を活用した市民意見の聴取の方法について、どのような調査、研究をしているのか、について

ですが、現在、市政変革研究会ウェルビーイング分科会において、市民の声を聴くシステムについて、市民自治推進課、広報課などで調査研究をしています。

その中で、議員ご案内の「アイデアボックス」や「デシデム」といったデジタル技術を活用した市民意見聴取ツールを導入している複数の都市へ聞き取りを行い、その効果や課題の把握、分析を進めてきました。こうしたツールは場所や時間、人数などの制限があるワークショップ等と比べて意見投稿しやすい点などのメリットがある一方、意見募集のテーマによって、意見投稿数やアクセス頻度に大きく差が生じており、ツールの導入だけでなく、意見投稿を促す工夫を継続的に行うことが不可欠であることがわかりました。ウェルビーイング分科会の委員からも、市政そのものへの関心を高めることも重要であるといった意見をいただいております。こうした観点も踏まえ、今後も継続して検討を進めてまいります。

- ②情報公開と市民参加の分野は幅広く多様なスタイルがあり期待したいと考えます。そうした中で現在、9月21日財政局長から2024年度財政指針が示されています。市民や議会から様々な要望が出されています。それらを踏まえ第1次、第2次、そして市長裁定と予算編成が進行します。そして来年の予算議会では、議会に新規、拡充など事業の状態を示す説明がなされます。しかし、この10月から2月までの予算編成過程はブラックボックスです。私は、予算編成過程、少なくとも新規事業が予算化される過程を情報公開し市民が市政に参加するシステムをつくる必要があると考えています。
- 2023年度当初に予算における新規事業は、要求時と編成後の段階でそれぞれいくつあるのか。また2024年度当初予算要求段階でいくつあるのか。

<財政局長 答弁>

当初予算における新規事業の数についてですが、令和5年度では、単年度限りで実施する臨時的な事業も含め、263事業の新規事業の予算要求があり、このうち、最終的に予算化されたものは235事業です。令和6年度では、276事業の新規事業の要求がありました。

- ③予算編成はどういった段階を経て行っていくのか、また、新規事業はどのような観点で予算査定を行っていくのか。

<財政局長 答弁>

続いて、どういった段階を経て予算編成を行っていくのかと新規事業の予算査定の見点についてですが、まず、本市における予算編成の方法は、財政局から示達された一般財源の範囲内で各局が予算を編成する事業と、財政局の予算査定を経て編成する事業によって2つに大別されます。各局が予算編成を行う事業は、施設の維持管理や継続的に実施している補助金などで、各局において必要な事業に予算を組み替えて編成しています。

財政局で予算査定を行う事業は、4次総に基づく投資的経費や予算を重点配分する施策に関するソフト事業、年度間の事業費の増減が大きい事業などです。これらの事業は財政局内で段階的に査定を行い、このうち、重要なものは市長・副市長の査定を経て決定し、予算を編成しています。

なお、政策・施策に大きな影響を与える事業などについては、あらかじめ経営会議などで方針を確認・決定した上で、その方針に沿って予算査定を行っております。

また、新規事業の予算査定は、社会情勢や市民ニーズを踏まえた事業実施の必要性や有効性、費用対効果や事業手法の妥当性などの観点から事業を精査し、その結果、当初予算に計上する必要があると認められる事業を予算化しています。

④タブレット資料、千葉県我孫子市の予算編成過程の情報公開と市民参加状況に関する資料です。新規の事業名や要求額が具体的に示され、3回にわたる予算査定、字が小さいですが12月、1月、2月、での市民意見を受け入れ公表しています。静岡市においても少なくとも新規事業については予算編成過程を公開し、市民意見を取り入れていくことについてどのように考えているか。

<財政局長 答弁>

予算編成過程の公開による市民意見の取り入れについてですが、本市は、これまでも政策形成にあたっては、市民参画の推進に関する条例に基づきパブリックコメントやワークショップなどを実施し、市民意見を反映した上で総合計画等の計画の策定や施策の立案を行い、これらに基づき予算を編成しています。このような過程の中で、市民意見は予算編成に一定程度反映されているものと考えております。

市が実施する政策・施策をわかりやすく提示し、市民の皆さんの「共感」を得ることは大変重要であり、先ほど総務局長が答弁したとおり、政策形成過程において、より市民が参加しやすい環境を整える必要があると考えています。

本市の予算編成における情報公開については、編成方針や課別の予算要求額、最終的な予算額を公表しておりますが、他の政令市では、9市が主要事業の予算査定の状況を公表しております。

ただし、ほとんどが事後公表で、予算編成中にこれらを公表し、市民意見を聴取している市は2市のみとなっております。

また、議員ご紹介の我孫子市においては、予算編成中にパブリックコメントを実施しているものの、寄せられた市民意見は直近の3年間で2件という状況です。

こうした状況を踏まえ、他市の取組状況を研究し、効果的な公表手法や公表時期について検討を進めていきたいと考えています